

平成二十四年度

目白研心中学校・入学試験問題

国語

〈注意〉

- 一、時間は五十分です。
- 二、答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三、文字は鉛筆で、ていねいに、はっきり書きなさい。
- 四、問題は一ページから九ページまでありますので、はじめに確かめなさい。

受験番号
中 学
番
氏 名

一 次の線①～⑤の漢字には読みを、——線⑥～⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 試験の誤りを直す。
- ② 父が勤めている会社。
- ③ たいへん明朗な性格。
- ④ 大金を銀行に預ける。
- ⑤ そろそろ消灯の時間だ。
- ⑥ 美しいシセイを保つ。
- ⑦ 母のカンビヨウをする。
- ⑧ 試合がエンチヨウした。
- ⑨ 様々なコンナンに打ち勝つ。
- ⑩ 会場がコンランしてしまう。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(問題作成上、本文に省略した部分があります。)

①新しい語や言いまわし、ことばのひびきに敏感なのは、昔から若者たち一般に見られた傾向です。若者、とくに子どもたちは、遊びのなかで関連に語を創造していきました。それは各地各所で独特なパターンのものであり、りました。

②一例を掲げましょう。春に深紫色の小花をつける可憐な草「スマイレ」の名づけについてです。スマイレという名前は古く万葉の時代からあったもの

で、もともとは花の形を墨壺にたとえてスマイレと言ったものが、のちにスマイレと短くなったのだとされます。

③このスマイレをあらわす言い方には、各地にさまざまなものがあります。全国的に広く分布するのはスモートリバナという語形です。この語については、スマイレの鉤形の花の形態が力士のちよんまげに似ていることからの発想だとする人もいますが、本来は子どもたちが、この花の首をたがいにからませて引きあって争う遊びを、相撲にたとえたことからの命名だと考えられます。東北地方にカンコバナというところがありますが、このカンコは鉤の意味でしょう。中部地方にはクビキリバナというところがあります。九州地方にはコウマカチカチ、コマビキなどというところがあります。おそらく花の形態を馬の顔に見立てた命名でしょう。首を引きあって勝負を競うことから名づけられたものと思われます。なお、岐阜にはジジババ、奈良にはジロタロがあります。これは、おじいさんとおばあさん、次郎対太郎のペアの連想で、これもやはりたがいに争って遊ぶことに由来するものでしょう。

④注目したいのは、これらの語形のいずれもが、子どもたちの

A

の世界において創造されたと推測される点です。

⑤伝統的權威にこだわらない自由な発想、独自の魅力的な命名、それはまさに新語発生の根本のところにあるもので、若者特有の行動ともいえるものなのです。

⑥このところ、首都圏の女子高生のあいだでは、方言の運用がちよつとしたブームになっています。そこで興味深いのは、各地方言の利用のしかたです。

⑦たとえば、会話に織りまぜたり、メールでのやりとりで用いられるもの

に、

「なまら、せからしか」
「ちかっぱ、めんこい」
「でら、ちばりよ」

などの言いまわしがあります。

「なまら」は北海道での用語で、「たいへん、とても」という意味、
「せからしか」は九州弁で、「騒がしくて、いらいらする」という意味、
「ちかっぱ」は博多での用語で、やはり「とても、すごく」の意味、
「めんこい」は有名な東北弁で、「かわいい」の意味、
「でら」は名古屋弁で、「すごく、めいっぱい」といった意味、
「ちばりよ」は沖縄での用語で、「がんばれ！」という励ましの意味、
をそれぞれあらわします。

⑧このように、自分や自分の家族とはまったく無縁の地域の方言を、適宜にさまざまに組みあわせて使うというようなことは、これまでになかった用法です。若者ならではの発想といえるかと思えます。

⑨各地の方言を組みあわせて、仲間うちで意思疎通をはかる、いわば暗号のようなものとして使われるのです。語感やことばのひびきを楽しむ、それはことば遊びの一種といっているでしょう。そこには、ふつうのことばにはない、心をなごませるなにかがあります。それを言ったり聞いたりして、無意識のうちに癒されている人も多いはずですが。

⑩これらの背景にあるのは、若い人たちの、たえず新しいものを探して、自分たちの感性にあつた使い方をしたいという欲求です。しかし、新しいことばを創造するのは至難の業。既存のことばを探して、それを組みあわせるなどしてアレンジすれば、より新鮮に聞こえます。そこで、全国各地

江戸時代の天保ごろから使われる。「あのお方はマッターリしといやす」のように重厚な落ち着いた感じの人にもいう。

と、伝統方言としての用例が掲げられています。したがって、本来はかならずしも味の状態に限定されたものではなく、人柄や性格にも使われたものであることがわかります。

⑪ただし、そこには、近年のような「やることなくつまらない」といった意味あいも認められません。B、そのようなマイナス的な意味が付加されたのは、この語が東京にとりこまれた一九九〇年代以降のことだと推測されるのです。

⑫ことばに敏感なのは、いつの時代にも若者たち特有の傾向でした。現代の若者たちのことばづかいを分析してみても、そこにはいろんな感情や思いがこめられていることがわかります。

⑬たとえば、「なにげに」という表現がありますね。「なにげ」は本来、「なにげなく、なんとなく」といった使われ方をしたものでしたが、現代の「なにげに」には「それまではよくわからなかったが」じつは、ほんとうは「といった意味が隠されています」。「あの店、なにげにおいしいよね」「かれ、なにげにやさしいよね」などと使います。

⑭「さりげなく」の変形「さりげに」も同様です。「もつとさりげにやんなくっちゃ」「わたし、座席をさりげに譲ったの」といったぐあいです。C、「さりげに」の意味は「さりげなく」と同じです。

⑮これらの形式については、「なにげなく」「さりげなく」の「なく」に含まれていた意味がうすれ、「なにげ」「さりげ」のそれぞれに、ほかの副詞

の方言に注目しはじめたというのが真相だろうと思えます。

⑯日本各地の方言が東京の若者のことばにとりこまれ、そこで新しい意味や使い方、言いまわしのアレンジが加えられて、本来使われていた場所にもどっていく。このように最近では、ことばの逆輸入ともいえる現象もおきています。

⑰たとえば、自称詞の「うち」とその複数をあらわす「うちら」ですが、本来は大阪周辺部での女性が使うことばでした。「うち、知らん」(わたしは知らない)、「うちら、知れへん」(わたしたちは知らない)のような使い方、男性は使わない表現でした。

⑱国立国語研究所の一九九〇年の調査によると、東京での中学生のうち、「うち」を使用する者は、女子で八・五%、男子で五・〇%でしたが、最近では東京の男子中学生の六〇%以上が使うとの情報があります。朝日新聞社の河合真美江さんは、保育園の男児が使っているのを耳にしたそうです。「うち」という語のかわいいひびきが好まれてきているようなのです。

⑲大阪では、伝統的経緯から、「うち」について男性はさすがに使用に抵抗があるようなのですが、複数形の「うちら」については、若い男性たちが葛藤しつつも使いはじめていることが観察されます。

⑳「まったり」という表現も、最近よく聞きますね。「まったり」は、大阪では、食べものの味わいがまるやかでコクのあるさまをあらわしました。「梅酒は、しばらく寝かせておくと、まったりしておいしい」のような使い方です。

㉑しかし、近年では、ゆっくりした緩慢なさまとか、無為の気分をあらわすものとして、全国的に使われるようになりました。

㉒堀井令以知編『上方ことば語源辞典』(東京堂出版)によれば、

と同じように「に」をつけることによって発生し、首都圏に拡大したものと考えられます。

㉓また、「やばい」という表現があります。「やばい」は本来「困った」とか「悪い」といった意味をあらわしましたが、いつのまにか逆転して「感激する」「興奮する」といったプラスの意味あいで用いられるようになりました。それも単なるうれしさではなく、「思っていた以上に」感動したという気持ちもこめられているのです。「うっそー」などというものも同様に、予想をくつがえすような状況に驚くさまを表現しているのです。

㉔こういったことばから、まさに現代の若い人たちの独特の心の動き、そして、そこにこめられている微妙なニュアンスを読みとることができるよう、わたしには思われます。

(真田信治『方言は気持ちを伝える』)

(注) ※1 闊達…のびのびしているようす

※2 万葉の時代…「万葉集」の時代、奈良時代

※3 鉤形…物にひっかけて引いたり止めたりする道具のような形

※4 適宜に…その場の状況に合わせて

※5 至難の業…とても難しく難しいこと

※6 既存…すでに存在していること

※7 伝統的経緯…昔からの物事の細かい事情、いきさつ

※8 葛藤…あれこれ迷い、悩むこと

※9 緩慢…動きがゆっくりしていること

※10 無為…何もしないこと

※11 ニュアンス…言葉の微妙な意味合い

問一 —— 線①「スモートリバナという語形」とありますが、筆者はこの語はもともとどのような発想から生まれた言葉だと考えていますか。それがわかる表現を本文から六十字以内で探し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点も数える)

問二 空らん [A] に入る語として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 勝負 イ 遊び ウ 学び エ 空想

問三 —— 線②「そこで興味深いのは、各地方言の利用のしかたです。」について、

- (1) どのような利用のしかたが興味深いと筆者は考えているのですか。本文から四十字以内でぬき出し、解答らんに合わせて最後を「・・と」いうような用法」として答えなさい。
- (2) この利用のしかたの効果として適切なものには○、適切でないものには×をつけなさい。
- ア 若者が仲間うちだけで気持ちを通じ合わせる方法になる。
- イ 語感やことばのひびきを楽しむ言葉遊びの一種となる。
- ウ そのことばを聞いて生まれ故郷を思い出し、心がなごむ。
- エ 言う人も聞く人も無意識のうちに癒される不思議な力がある。
- オ 若者だけでなく多くの人の感性にあった新鮮な使い方になる。

問四 —— 線③「言葉の逆輸入ともいえる現象」とありますが、そのことについて説明している段落はどこからどこまでですか。段落番号で答えなさい。

- 問九 次のうち、本文の内容と合っているものを一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 若者は伝統的権威にこだわらない自由な発想や魅力的な命名ができるので、新しい日本語を考へるときには必ず若者の意見を聞くべきである。
- イ 方言の運用のブームは新しい言葉を作るより、方言を組みあわせアレンジした方が簡単で、新鮮なイメージになるとい背景があるのだろう。
- ウ 若者たちが使う「なにげ」「さりげ」ということばは、ともに本来の「なにげなく」「さりげなく」という意味とはちがった意味で使われている。
- エ 現代の若い人たちはさまざまな感情や独特の心の動きを伝えることが苦手なので、メールや会話で自分たちだけに通じる表現を使用している。

問五 —— 線④「『まったり』という表現」はもともとどのようなものに対して使っていたのですか、本文から三つ、それぞれ五字以内でぬき出しなさい。

問六 空らん [B]・[C] に入る語句として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア たとえば イ ところで ウ そのうえ エ したがって
オ ただし カ そこで キ しかし ク まさに

問七 —— 線⑤「『やばい』という表現」とありますが、この言葉の特徴として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 本来は全国で使われていた表現であったのが、近年首都圏を中心に意味合いも変化して流行した。
- イ 本来は若者だけでなく多くの人々が使う言葉であったのが、現代の若者だけが使う言葉になった。
- ウ 本来の伝統的な意味からは予想もできないほど、まったく関係ない意味で使われるようになった。
- エ 本来マイナスの意味をあらわしていたが、今はプラスの意味で感動や驚きを表現することもある。

問八 本文は内容から四つのまとまりに分けられます。その一つめと二つめのまとまりとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 一つめ ① ④ 二つめ ⑤ ⑨

イ 一つめ ① ④ 二つめ ⑤ ⑩

ウ 一つめ ① ⑤ 二つめ ⑥ ⑨

エ 一つめ ① ⑤ 二つめ ⑥ ⑩

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

塾の友だちに暑中見舞いのメールを送るのを約束していた。学校の友だちはほとんどパソコンを持っていないので、はがきで送ることにしている。松原先生は「小学生のうちにはパソコンなんて使わないほうがいいのよ」と言うけど、便利な道具はほとんど使えばいいじゃないかと思う。パソコンでつくった暑中見舞いと手書きのはがきの暑中見舞いに、差がない。パソコンだから心がこもっていないなんて偏見だ……そんな言葉をつかうと、また先生は嫌な顔をするだろうな……。

パソコンの液晶ディスプレイに、デジカメの画像が映し出された。草原に、森に、青空に、雲に、遠くの山なみ——牧場をそのまま使った『わんぱく共和国』は、『そよかぜライン』から眺めた風景とほとんど変わらない。最初はきれいだと思い、それなりに感動もしたが、半日も過ぐすと、もう飽きてしまった。ふーん、きれいだね、でもそれがどーしたの？ って感じた。

ディスプレイでモニターしながら、デジカメの角度を変えて、ベストアングルを探した。パパがくわえ煙草で「おい、圭太、パパが撮ってやろうか」と言ってくれたけど、笑って断った。パパが撮ったデジカメの画像はいつもあとで補正しなくちゃいけないし、ぼくの顔は画像ソフトではめ込み合成するつもりだ。Vサインをつくった写真は、もう東京で撮ってある。文面は「ぼくはいま大自然の中にいます(笑)」。ほんものなのに、つくりもの。そういうのが、なんとなく、いい。

デジカメの画像をパソコンに取り込んでいたら、ログハウスのほうからホイッスルの音が聞こえた。

サファリハットにバンダナにアーミーシャツにハーフパンツにハイソックスという、アフリカの密猟者みたいなファッションの『わんぱく共和国』のスタッフが、マウンテンバイクでこっちに向かってくる。

たしか、最初の自己紹介で「リッキーと呼んでください」と言っていたと。断っておくけど、このひと、日本人。スタッフはみーんなどこから見ても日本人で、だれど名前もリッキーにマイケルにジョニーにローズにリンダ……。ビジュアル系バンドみたいだ。

「なんだなんだ、うるさいなあ」

パパは煙草を足元に捨てて、ローファアーマのつま先で火を消した。

すると、リッキーさんはまたホイッスルを吹いて、シャツの胸ポケットから出した黄色いカードを高々と頭上に掲げた。

イエローカード——つてやつ？

パパとぼくが三十分かけても屋根すらかけられなかったテントを、リッキーさんはたった一人で、五分たらずで組み立てた。煙草のポイ捨てを注意されてムツとしていたパパも、思わず「へえーっ」と感心するほどの手際のよさだった。

リッキーさんは作業を終えるときぼくを振り向き、パソコンを差した指をワイパーみたいに左右に振った。

「おいおい、都会のもやしっ子、大自然の中じゃそんなものは役立たずさ。風を肌で感じてみなよ、森の息吹を全身で受け止めてみなよ、パソコンなんかよりずっと楽しいんだぜ」

巻き舌で、おおげさな身振りを交えて、今度パソコンを出したらイエローカードだぞ、と警告する。

「お肉、どうするの？」

「鹿肉なんて、そんなの食ったら腹こわすぞ。寄生虫いるんだから、ああいう肉には」

「捨てちゃうの？」

「……クーラーボックスに入れとけばだいじょうぶだろ。ママにおみやげだ、珍しいから喜ぶぞお」

強がって笑うパパの背中が、悪いけど、どんどん小さく見えてしまう。

「ま、とにかくサンドイッチでも食うか。パン、売店で売ってたの知ってるんだ、ちよつと買ってくるよ」

「サンドイッチ、パパがつくるの？」

「あたりまえだろ、いいからまかせとけ」

駆けだすパパの背中に、ぼくは「手、洗ってきてね」と言った。パパの手は炭を触ったせいで真っ黒だ。その手で汗を拭いたり虫に刺されたところを掻いたりするから、顔も首筋も黒ずんでいる。軍手を持ってこなかったパパが悪い。でも、せっかく売店があるのなら軍手ぐらい売ってればいいのに。ついでにチャッカマンとか固形燃料とかも。売店担当のマイケルさんはあいさつするとき「テント以外の基本的な道具は、あえて売店には置いていません。忘れたひとは、ご自分で工夫してください」とすまし顔で言っていた。

ログハウスの窓から、パパがマイケルさんと話しているのが見える。なにか質問されているんだろうか、パパは身振り手振りを交えて、いかにも言い訳を並べたてているみたいに、しどろもどろにしゃべっている。

マイケルさんは、食パンといっしょに二枚目のイエローカードを出した。売店で買ったものをむだにしてしまうのは、アウトドアのルールに違反し

ドーンと疲れた。「もやしっ子」と呼ばれたことを怒る気力すら湧いてこない。

風を肌で感じる。森の息吹を全身で受け止める。

うひゃあつ、と声が出そうになる。

なんか、それって、すごく嘘っぽくない？

キャンプに参加した五十組の親子の中で、ぼくたちはサイターのペアだった。

トップから一時間近く遅れてスタートしたオリエンテリングは、けっきよく第一チェックポイントにすらたどりつけなかった。パパの「こっちだ」を信じたのが間違いだった。捜しにきたジョーさんとチャリーさんのジープに乗せてもらい、無線でログハウスに連絡するジョーさんの「救助、完了」という言葉を聞いたときには、泣きそうになった。

テントに戻って夕食の支度にとりかかっても、やっぱりサイター。ログハウスの売店で、「せっかくこういうところに来たんだから、野生の味でいくか」と鹿肉をブロックで買ったのに、料理もなにも、焚き火にちっとも火がつかない。

百円ライターじゃ無理だと思っていたぼくは最初からあきらめモードだったけど、パパは煙にむせかえったり、熱くなったライターの先を触ってやけどしそうになったりしながら、一時間近くがんばった。でも、最後は「もういい、やめたやめた」と石組みのカマドを蹴飛ばして、ギブアップ。いつだったっけ、プレステの『電車でGO!』を教えたときと同じだ。

「今夜はパンだ、いいな、圭太。おまえパンのほうが好きだもんな」

ているらしい。おみやげで肉を買ったんだとパパが何度言っても信じてもらえなかったらしい。給食を食べ残すと昼休みに遊ばせてくれない松原先生に負けないぐらい厳しい。

都会の窮屈な暮らしを忘れる三日間——。

パンフレットには、そんなコピーも書いてあったと思うけど。

(重松 清『サマーキャンプへようこそ』)

(注) ※1 ログハウス：丸太造りの建物

※2 オリエンテリング：野外で行うゲームのひとつ

※3 プレステ：家庭用ゲーム機

※4 軍手：作業用の手袋

※5 チャッカマン：火をつける道具

問一——線①「偏見だ」とありますが、「偏見」とは「公正ではない一方的な見方」という意味です。ここでは①だれの②どのような見方について偏見と述べているのですか。それぞれ答えなさい。

問二——線②「つくりもの。」とありますが、ここではどのような意味を表していますか。もっとも適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 手を加え加工したもの イ 手作業で作ったもの
ウ 紙や木で作ったもの エ 心をこめて作ったもの

問三——線③「シャツの胸ポケットから出した黄色いカードを高々と頭上に掲げた。」とありますが、リッキーさんは何のために黄色いカードを掲げたのですか。本文の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

問四 — 線④「手際によさだった。」とありますが、「手際によさ」を思わせる部分を本文からぬき出し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点も数える)

問五 — 線⑤「もやしっ子」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 色白の子 イ 野菜好きな子 ウ ひ弱な子 エ 都会の子

問六 — 線⑥「うひゃあつ」と声が出そうになる。なんか、それって、すごく嘘っぽくない？」とありますが、ここから読み取れる「ぼく」の性格として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 感情的で、ささいなことにもおこりっぽい思いやりのない子ども。
イ 身の回りのできごとを批判的にみることが出来る大人びた子ども。
ウ やんちゃで、何にでも興味や関心を持つ、落ち着きのない子ども。
エ 何をするにも自分一人で作らないと気がすまない幼さがある子ども。

問七 空らん に当てはまる表現として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 頼りなくて イ ぎこちなくて
ウ 情けなくて エ うれしくて

問八 — 線⑦「強がって」とありますが、「強がる」とは「弱点をかくして強く見せかける」ことです。この場面ではどのようなことをかくそうとしたのですか。三十字以内で答えなさい。

四

例にならって次の漢字の部首を書きなさい。

(例) 追 ↓ 辶

① 登 ② 痛

五

次の各文の中の () にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

- ① ボールペン () サインペンで記入してください。
- ② 今日はお祭りだ。() 町全体がにぎわっている。
- ③ 君の意見もわかる。() まだ納得できない。

ア でも イ または ウ では エ それで

問九 — 線「パパの背中」という表現がくり返してきますが、ぼくにはパパはどのような父親として映っていますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 失敗をおそれずに何事も自分ひとりで作る、たのもしい父親。
イ 失敗をしては周囲に言い訳をくり返す信用できない父親。
ウ 失敗を繰り返しても、けっしてへこたれない強い父親。
エ 失敗続きだが何事にも一生懸命に取り組むにくめない父親。

問十 — 線⑧「都会の窮屈な暮らしを忘れる三日間」。パンフレットには、そんなコピーも書いてあったと思うけど。」から読み取ることが出来る多くの気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 失敗さえしなければらしい三日間を送ることが出来たと思う残念な気持ち。
イ 都会と同じようにいくつものルールにしばられて、それなりに窮屈に思う気持ち。
ウ どんなトラブルに対してもすばやく処理するスタッフの姿にあこがれる気持ち。
エ 三日間では十分に楽しむことができなかったのもっといたいと心残りの気持ち。

国語解答用紙

受験番号

中 学

番

氏 名

評 価

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

二 問一 初め

〽

終わり

問二

問三 (1)

10 10

40 20

というような用法

- (2) ア
- イ
- ウ
- エ
- オ

問四

〽

問五

問六 B

C

問七

問八

問九

三 問一 ①

②

問二

問三

10

20

問四

〽

問五

問六

問七

問八

30 10

20

問九

問十

四 問一

①

②

五 問一

①

②

③